

外国人と上手く働く 10 か条

根気よく接していこう

- 1 あうん、の呼吸では伝わりません。直接的な表現を心がけよう。
- 2 人前で注意されることには慣れていません。注意は個別にしてみよう。
- 3 「母国で看護師」「知識を持っている」といって期待しすぎない。過度なプレッシャーにつながるので注意しよう。
- 4 私たちにとって当たり前の日本の職場慣習は、外国人には理解できないことが多い。時間をかけて説明しよう。
- 5 母国で学習していたケアは日本と違う。外国人の母国でのケアの経験を聞いて、違いがあれば少しずつ伝えよう。
- 6 母国人との交流を大切にして、職場で母国語を話せる時間を作ってあげよう。
- 7 ステレオタイプで捉えず、個人の能力をみて評価しよう。日本で働くモチベーションをあげていこう。
- 8 相手の母国の習慣や宗教について理解しよう。(食べ物、宗教、タブー、など)
- 9 同じアジアといっても文化や価値観が違う。違いの良さを受入れていこう。
- 10 辞書やアプリを活用し、仕事の用語などの翻訳を事前に行ってみよう。(図や文字で示すと伝わりやすい。)

外国人への対応について



話すときの注意

- 外国人の話丁寧に聞き、意思確認をする。
- 相手が理解しているかを、確認しながら話す。
- やさしい日本語を使い、主語を明確にする。丁寧語は使いすぎない方がよい。

各国の文化の特徴 ～ 言語、宗教、特徴 ～

インドネシア

基本はインドネシア語。

それぞれの地域で、語彙も文法規則も異なる580以上の言葉が日常生活で使われている。

国民の大部分(約90%)がイスラム教徒のため、多くのインドネシア人は豚肉やアルコールを口にしない。

年一回、一か月のラマダン(日中の飲食を絶つ、イスラム教徒の義務)がある。左手は不浄とされているので、左手を使った物の受け渡しは避ける。

フィリピン

公用語はフィリピン語と英語であり、約80前後の言語がある。

国民の80%がカトリック、その他のキリスト教が10%、イスラム教は5%。

"フィリピーノ・ホスピタリティ"という言葉があるほど、他人との円滑な人間関係を大切にする。

誰にでも極めて親切で、笑みを絶やさず、日本人と同様に「義理」や「恩」といった感情をもっている。

ベトナム

ベトナム語。

国民の80%が仏教、その他カトリック、カオダイ教がある。

ベトナム人は民族の独立と自主を尊ぶ国民である。

社会制度上、種族、性別、職業・職種の違いにかかわらず国民はすべて平等となっており、一般的にそうした意識が定着している。

多文化ソーシャルワーカーの活用

外国人の抱える生活上の問題に対して、文化的・社会的背景を踏まえて専門的相談に応じ、関係機関と連携しながら問題解決まで一貫して支援する人材



役立つ情報サイト

● 多言語生活情報
(一般財団法人自治体国際化協会)
clair.or.jp/tagengorev/ja/index.html



● 異文化看護データベース
(公益社団法人日本看護科学学会)
plaza.umin.ac.jp/jans/iinkai/intl/index02.html



● 外国人の生活ガイド
(東京都国際交流委員会)
tokyo-icc.jp/guide/



発行元 Cross Cultural Care研究会

URL: <http://cross-cultural-care.com>

代表: 畠中 香織

注: 本パンフレットは、JSPS科研費15H03456の助成を受け作成しました。 ver. 2019

ケア現場で 外国人と うまく働くために!



日本で働く外国人ケア労働者について

EPA制度 2008年からフィリピン・インドネシア、2014年にはベトナムからの受け入れが始まりました。

※「経済連携協定」(EPA: Economic Partnership Agreement)は、WTO(世界貿易機関)を中心とした多国間の貿易自由化を補完するため、国や地域を限定して、関税等の貿易障壁を撤廃することにより、モノ・ヒト・カネ・サービスの移動を促進させようとするもの。

同じ職場で働く外国人について理解を深めましょう

特徴

政府間の協定に基づく。送り出し国の看護教育修了者、高学歴候補者が来日。約1年の日本語研修を受けて、日本の病院や介護施設で就労しながら看護師又は介護福祉士国家試験の合格を目指す。



施設に求められる条件

研修責任者の配置、3年以上の実務経験のある研修支援者、日本語の継続的な学習、職場への適応促進、日本の生活習慣修得の機会を設ける。

ケアの知識

母国でケアを学んでいるが、病院で働いた経験がない人もいる。

日本に来る目的

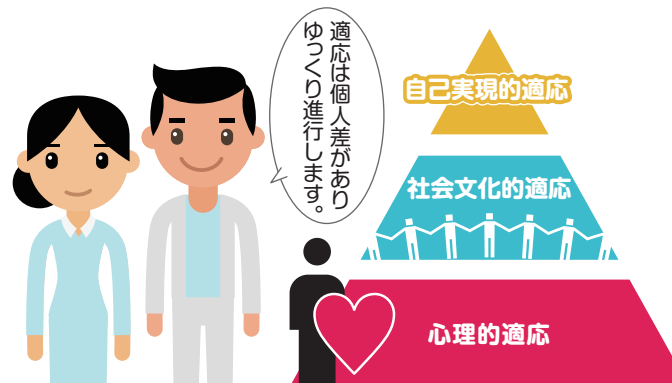
日本の技術習得、
家族の経済的な補助など。

ケア現場で生じやすい問題

外国人の日本語の読み書きの能力不足、コミュニケーションのすれ違い、母国と日本の職場慣習や生活習慣の違い。



外国人の異文化適応を理解しよう！
日本人からはどんな支援ができる？



異文化適応って何？

外国人が日本の文化を理解しながら、仕事・日常生活や慣習を学習し、新しい環境での生活に慣れるために必要な適応プロセスです。この適応が上手く進まないと、外国人は日本の生活が困難になり、仕事へも影響が出てしまいます。

1：心理的適応

心の健康のステージです。
期待と不安で心が揺れ動きます。

2：社会文化的適応

日本で働けるかどうかの重要なポイントです。
主に職場の日本人との交流を通して、仕事や生活において大切な日本文化や慣習を知ります。

3：自己実現的適応

日本での適応が上手く進むと、仕事・生活が充実し、安定して生活できるようになります。



外国人の異文化適応を支えるために！

社会文化的適応のステージで、仕事・日常生活へのサポートを提供しよう

職場では、外国人に積極的に声をかけてみてください。
職場以外での交流では、外国人に日本の生活文化が伝わります。
それが、外国人の満足感や、職場への愛着にもつながります。

→適応が良好に進行することで、
外国人から「異文化間ケア」が生まれる。

異文化間ケアとは？

日本的ケアと外国人の母国的ケアが混合したもの

仕事に対する外国人の気持ち

日本人ともっと話したい、日本の国家試験に合格したい、国家試験に合格したら日本に住みたい、日本のケアを勉強したい、遠慮しないで接して欲しい。
母国でのケアを忘れずに丁寧にケアをしたい、母国との仕事の違いに戸惑うのでサポートが必要、家族に会うために休暇が欲しい。

高齢者に対する外国人の気持ち

母国では大家族で過ごすので、日本人以上に、家族以外の高齢者のことを家族の一員のように大事に思っている。日本の高齢者さんへのケアは楽しい。高齢者の方言は難しい...

外国人に対する高齢者の気持ち

一生懸命にやってくれる。日本人と変わらないケアをしてくれる。安心してケアをうけられる。

外国人を否定的にとらえず、外国人の存在が生きがいになる。